

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470901438
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホームカメリア式番館
訪問調査日	平成30年3月7日
評価確定日	平成30年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月10日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館			
所在地	( 223-0057 ) 横浜市港北区新羽町4092-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	H30年2月4日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カメラ式番館は竹林や畑などに囲まれた緑豊かな環境の中に立地している。四季を通じて季節を肌で感じる事が出来る。天気の良い日には気分転換と運動を兼ねて散歩に出かけ、体力低下予防とともに地域社会と触れ合う機会を設けている。毎日の生活に関わることで、入居者が主体的に関われるよう援助している。個人差のある身体能力の中で一人一人の出来る事、やりたいことを実現できる場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じることが出来るよう力を注いでいる。ホームで行う誕生会や、クリスマス会などの他、同法人で行われるボランティアによる催しへの参加や地域の催しへの参加など、楽しみも生活に取り入れている。また、ホームの入居者については、同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者と相談し合えるサポート体制がある。年々変化していく入居者の状態に寄り添いながらその方の可能性、残存能力を活かしその方にとってより良い生活を念頭においた支援をしていきたいと考えている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年3月7日	評価機関 評価決定日	平成30年3月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療法人寛栄会の経営です。同法人は新横浜介護老人保健施設カメラを中心に、診療所と居宅介護支援センターを併設し、近くに2つのグループホームを運営しており、その1つがここ「高齢者グループホーム カメラ式番館」です。カメラのサービスとして「尊敬」「慈愛」「親切」を掲げ、心のケアを重視する姿勢を大切にしています。場所は、横浜市営地下鉄「新羽駅」から徒歩15分の自然豊かな環境の中にあります。この事業所は、広々とした平屋建ての造りで、居室も談話スペースもゆとりを持たせた設計になっています。中庭に広いウッドデッキが設けられており、洗濯干し場、お茶会や外気浴などにも活用され、敷地内には畑もあります。

●理念に「入居者の意思を尊重」「家庭的で楽しい生活」「ご家族や地域とふれあうホーム」を掲げ、玄関に掲示しています。利用者を「ご入居様」と呼び、入居者一人ひとりの意思を尊重したサービスの提供、家庭的な温もりを感じられる雰囲気作りへの取り組み、地域行事に参加することで地域の方との交流を図り、社会性を維持出来るようにし支援しています。食事はホームの台所で作り、調理や食器洗いは入居者が職員と共に行っています。法人経営の介護保険施設カメラの協力とサポート体制が整い、24時間入居者に寄り添うことで入居者と家族にとって安心できるケアサービスが提供されています。

●事業所では、毎月、入居者の様子や行事予定などを記載した「カメラ式番館便り」を送付し、変化も含め細かく様子を伝えることで家族との信頼に繋がっています。法人では、職員の教育と研修にも注力しており、定期的に研修や勉強会を開催し、質の高いケアを実現すべく取り組んでいます。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。	理念に基づき、年度ごとに目標を掲げています。入居者の意思（願い）を否定せず、できる力（自立）を発揮させ、散歩時などで地域の方と会話するなど、社会性を維持しながら、居心地よく楽しい生活の場になるよう全職員が支援しています。理念は職員だけでなく、家族の来訪時にも目につくよう玄関に掲示しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど地域の催しには積極的に参加している。散歩の時などにも積極的に挨拶を行い、地域に馴染む努力をしている。	大竹町内会に加入し、運動会やお祭りなど地域の行事に参加します。町内会館で開催される「つるし雛」の作品展には入居者の作品を出展しています。法人と合同行事の椿祭や事業所行事などには、地域の方にも参加いただいています。毎年中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている他、地域の保育園児とも交流しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に対する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子をスライドを使用しわかりやすく説明し、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、外部の方の意見を聞き取る事の出来る場としている。	運営推進会議は、「カメラア壺番館」と合同で3ヶ月に1回、法人経営の老健会議室で開催しています。2町内会長・地域包括支援センター職員・民生委員・医師・看護師・法人本部長・入居者家族・管理者等が参加します。入居者の日頃の様子をスライドでわかりやすく説明し、意見交換を行っています。参加者の意見・提案はサービスの向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、行政主催の研修には、積極的に参加している。	区高齢・障害支援課を中心に、運営推進会議議事録を送付するなど、行政と連絡を密に取っています。アンケートや問い合わせなどにも対応しています。「感染症」などの情報提供や研修の案内があり情報交換を行うとともに研修会などに参加しています。運営推進会議には新羽地区社会福祉協議会会長にも有識者として出席していただいております。協力関係も構築できています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。外出願望のある入居者には可能なかぎり外出出来るよう援助している。否定をしないケアに努め心理的拘束感を持たれないように努めている。	法人内に身体拘束防止委員会があり、年2回「身体拘束・虐待について」の研修を実施しています。法人本部の身体拘束に関するアンケートの実施や、日常業務の中で身体拘束ボーダーラインについて常に話し合っています。門扉と玄関は安全確保のため施錠していますが、各フロア出入り口の施錠は行わず、自由に行き来が出来るようにしています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報・身体拘束等の知識を高めている。家族とは積極的に会話を行い、外泊時の様子の聞き取りや、病気の理解について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報・身体拘束等の知識を高めている。ホームには過去に、あんしんセンターを利用している人や後見人制度を活用している入居者がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時には重要事項説明や契約書の内容を一つ一つ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立てを、ホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声かけを行い話しやすい雰囲気作りに努めている。	行事予定や日頃の様子を記載した「カメラ式番館便り」を、毎月家族に送付しています。面会時や花火大会・クリスマス会などのイベントの時に、参加家族から意見や要望を聞き、家族の声を職員間で共有しています。運営推進会議にも家族代表が出席しており、意見・要望については検討した後に運営に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。	管理者と職員は日頃から話せる関係が構築されており、日常の業務の中でも意見や提案の聞き取りを行っています。入居者のサービス向上のため、運営や業務について、定期的なフロア会議で話し合い改善に繋がっています。管理者が中心となって意見を吸い上げ、月2回の法人内部会議で情報交換を行うなど、常時相談できる体制が整っています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回法人内各部署の代表による会議で、それぞれの部署の状況を情報交換できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として、地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人と会う機会を持ち、毎日の過ごし方等の聞き取りを行っている。また、ホームでの生活を伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。ホームはショートステイ利用も出来、本人がホームの生活を体感できる期間がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する際は、本人及び家族にホームを見学していただき、その上で家族が困っている事に耳を傾け、安心して頂ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していくうえでどのような支援が必要なのか、また、ご家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを考え、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で、（身支度・入浴・掃除・食事の支度等）出来る事は本人に行っていたり、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、外出・外泊の他、クリスマス会や花火大会など季節行事に、家族にも積極的に参加していただき、本人を支援する輪作りの努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで本人が生活してきた馴染みの物を持ち込みいただき、生活空間の中に取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推奨している。	入居前の面談で、入居者にとって馴染みの人や場所の情報を家族から聞き、状況把握に努めています。家族の来訪も個人差はありますが、月1～2回の来訪があります。知人・友人の来訪は家族の了解を取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援しています。家族と一緒に墓参りに外出される方もいます。また、手紙のやり取りの手伝いも行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物には一筆添えるなどして、これまでの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物や行きたいところなど、日々の会話から聞き取る努力をしている。	入居時に家族から、過去の生活歴や事業所での暮らし方の希望などをアセスメントシートで提供してもらっています。入居後は、日々の様子・表情・仕草、職員の気づきなどを個人情報として「24時間生活記録」や申し送りノートに記入しています。これらの情報を職員間で共有しながら、意向の把握に役立て、入居者の希望が実現出来るよう取り組んでいます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として、生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで、入居者の1日の様子を把握するように努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員からの聞き取りをもとに、一人一人の適性に合ったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。	入居時は暫定のケアプランで1カ月程度様子を見ます。入居者ごとの日々の様子・状態の変化などを「24時間生活記録」や申し送りノートで確認しています。全員参加のカンファレンスでは、看護師も出席し、6ヶ月に1回介護計画の見直しを基本としています。状態の変化に応じてその都度見直しを行い、計画作成担当者が入居者の現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方にあった取り組みを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や、食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットやコンビニなど、本人と共に地域に外出したり、自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、月に1回、カメラア診療所による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。	入居時にかかりつけ医の説明をしていますが、入居者・家族の希望を最優先にして主治医を決めています。協力医療機関は法人経営の「カメラア診療所」で、月1回の訪問診療があります。看護師の巡回は週1回あり、24時間、相談できる体制になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による、定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、いつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族と一緒に病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可をとり、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。過去に緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。	入居時、重度化した場合や終末期の対応について、事業所が「出来る事・出来ない事」を説明しています。重度化した場合は、協力医療機関「カメラリア診療所」と連携し、出来るだけ長く事業所での生活が送れるよう支援しています。重度化した場合は家族・看護師・事業所で話し合い、法人経営の老健への移行も含めて種々様々な選択肢を伝えた上で、方針を決めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会ではAED使用法や、救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、地域の方・入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。	年2回、夜間想定で実践に近い防災訓練を行っています。港北消防署新羽出張所の立会いで指導を受け、訓練しています。訓練には、町内会長・自衛消防団・家主などの地域の方も参加します。法人本部の防災担当も参加し、通報・消火訓練などをします。備蓄に関しては、法人本部が3日分の備蓄を管理しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した対応には常日頃からフロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について細心の注意を払っている。	法人内には接遇委員会があり式番館職員も委員として参加しており、職員の指導に当たっています。法令遵守や入居者に対する接遇については細心の注意を払い、名前は「名字(姓)」に「さん」付けを基本とし、入居者の自尊心に配慮し礼儀正しい姿勢で接するよう職員に周知しています。トイレの声掛けや職員間の連絡など、入居者が特定されないよう配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには、本人の要望に耳を傾け、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、その方の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員と一緒にしている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出るよう配慮している。	食事はホームの台所で作っており、調理や食器洗いは入居者と共に行っています。法人本部の管理栄養士が週単位でメニューを作成し、食材は近隣のスーパーに入居者と買い出しに行った物や、畑で採れた野菜を使用することもあります。調理や盛り付け・配膳・食器洗いは入居者と共に行っています。誕生会にはケーキを作り、皆でお祝いしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫、少量を数回に分けてすすめている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な方には昼夜トイレの声かけを行い失禁予防に努めている。	昼夜を問わず入居者個々の排泄パターンの把握に努めています。トイレでの自立排泄を目標とし、定時の声かけと入居者のタイミングを見計らったトイレ誘導で支援しています。夜間は定期的に巡回し、睡眠を重視しながら適切な時間にトイレ誘導するなど、個別対応を心がけています。便秘の予防として、水分・乳製品の摂取の他、散歩など、適度な運動を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、その方に合った方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善しない方には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入浴時間については、入居者の希望に出来るだけそえるようにしている。	入浴は週2～3回、15時以降からを基本に支援しています。入浴を楽しんでいただけるように、季節に応じたゆず湯・菖蒲湯なども行っています。希望者には同性で対応し、脱衣所には目隠しボードを設置するなど、プライバシーへの配慮をしています。入居者の意向に合わせ、清拭・足浴などの個別対応も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。また、リビングで他の方と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択することができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員へ効用を認識するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やクリスマス会など、歳時行事を行っている。また、縫い物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防とともに季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族に協力をお願いをしている。	天候や入居者の体調を考慮しながら、事業所周辺や近くの川沿いを散歩しています。周辺は自然に恵まれた環境で、身体機能の低下予防に加え季節を実感する機会を提供しています。地域イベントの運動会や夏祭りへの外出、同法人の老健で行われる行事にも参加しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にお預かりしているが、自己管理を希望されている方には家族と相談の上、いくらか所持していただいている。買い物の機会があれば、支払いをご自分で行っていただくことも考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便物は速やかに本人に渡している。過去に、家族と本人の希望で携帯電話を所持している入居者がいた。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンの活用や、夏はよしずを利用し、時間や気候に即した外光管理を行っている。	共有空間は、ゆとりのある広い造りで、空調・換気などに注意し、定時の掃除で清潔な環境が維持されています。中庭にはウッドデッキがあり、お茶会や日光浴でも活用しています。壁には入居者の様子を撮った写真が貼られ、廊下の隅にソファが設けられ、人目を気にせず静かに過ごせるスペースも用意しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、自由に過ごしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族の写真など、持ち込みしていただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。	各居室12㎡と広く、掃き出し窓の明るい部屋で、エアコン・換気扇・クローゼットが完備されています。入居時の生活環境の変化から入居者が不安や混乱を招くことのないように、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいただくように伝えています。その方にとって、使い慣れた物や馴染の物を配置し、家族の写真を飾る方もおり、入居者が安心して居心地よく過ごせるよう配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。ADLによっては職員が歩行の介助を行っている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム  
カメラア貳番館

作成日

平成30年6月4日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の社会資源ホームの運営に活用出来ていない。	地域の活動に参加し視野を広げ、近隣の方がホームについての理解を深め、協力体制を強固にする。	①地域で行う行事への参加。 ②防災訓練等には地域の方の参加をさらに推進する。	平成30年4月～ 平成31年3月
2	48	入居者の理解力と好みにばらつきがあり、余暇活動時に楽しめていない入居者が居る。入居者皆様が満足できる余暇活動の提案。	工作や料理・園芸・裁縫・昔の遊びなど入居者と共に楽しみ、実行する。	定期的に行うユニット会議で余暇活動についての話し合いを行う。 ①入居者一人ひとりの個性や好み・生活時間についての話し合いを行い、個別レクについて検討を行う。 ②職員は、あやとりや、折り紙等、一つでもできることを増やせるよう職員同士で学びあう。	平成30年4月～ 平成31年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど地域の催しには積極的に参加している。散歩の時などにも積極的に挨拶を行い、地域に馴染む努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に対する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子をスライドを使用しわかりやすく説明し、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、外部の方の意見を聞き取る事の出来る場としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、行政主催の研修には、積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。外出願望のある入居者には可能なかぎり外出出来るよう援助している。否定をしないケアに努め心理的拘束感を持たないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報・身体拘束等の知識を高めている。家族とは積極的に会話を行い、外泊時の様子の聞き取りや、病気の理解について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報・身体拘束等の知識を高めている。ホームには過去に、あんしんセンターを利用している人や後見人制度を活用している入居者がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時には重要事項説明や契約書の内容を一つ一つ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立てを、ホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声かけを行い話しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回法人内各部署の代表による会議で、それぞれの部署の状況を情報交換できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として、地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人と会う機会を持ち、毎日の過ごし方等の聞き取りを行っている。また、ホームでの生活を伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。ホームはショートステイ利用も出来、本人がホームの生活を体感できる期間がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する際は、本人及び家族にホームを見学していただき、その上で家族が困っている事に耳を傾け、安心して頂ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していくうえでどのような支援が必要なのか、また、ご家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを考え、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で、（身支度・入浴・掃除・食事の支度等）出来る事は本人に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、外出・外泊の他、クリスマス会や花火大会など季節行事に、家族にも積極的に参加していただき、本人を支援する輪作りの努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで本人が生活してきた馴染みの物を持ち込みいただき、生活空間の中に取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推奨している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物には一筆添えるなどして、今までの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物や行きたいところなど、日々の会話から聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として、生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで、入居者の1日の様子を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員からの聞き取りをもとに、一人一人の適性に合ったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方にあった取り組みを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や、食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットやコンビニなど、本人と共に地域に外出したり、自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、月に1回、カメラリア診療所による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による、定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、いつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族と一緒に病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可をとり、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。過去に緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会ではAED使用法や、救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、地域の方・入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した対応には常日頃からフロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について細心の注意を払っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには、本人の要望に耳を傾け、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、その方の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員と一緒にしている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出るよう配慮している。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫、少量を数回に分けてすすめている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な方には昼夜トイレの声かけを行い失禁予防に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、その方に合った方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善しない方には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入浴時間については、入居者の希望に出来るだけそえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。また、リビングで他の方と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択することができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員へ効用を認識するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やクリスマス会など、歳時行事を行っている。また、縫い物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を任せている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防とともに季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族に協力をお願いをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にお預かりしているが、自己管理を希望されている方には家族と相談の上、いくらか所持していただいている。買い物の機会があれば、支払いをご自分で行っていただくことも考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便物は速やかに本人に渡している。過去に、家族と本人の希望で携帯電話を所持している入居者がいた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンの活用や、夏はよしずを利用し、時間や気候に即した外光管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族の写真など、持ち込みしていただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。ADLによっては職員が歩行の介助を行っている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム  
カメラア式番館

作成日

平成30年6月4日

〔目標達成計画〕

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域の社会資源ホームの運営に活用出来ていない。	地域の活動に参加し視野を広げ、近隣の方がホームについての理解を深め、協力体制を強固にする。	①地域で行う行事への参加。 ②防災訓練等には地域の方の参加をさらに推進する。	平成30年4月～ 平成31年3月
2	48	入居者の理解力と好みにばらつきがあり、余暇活動時に楽しめていない入居者が居る。入居者皆様が満足できる余暇活動の提案。	工作や料理・園芸・裁縫・昔の遊びなど入居者と共に楽しみ、実行する。	定期的に行うユニット会議で余暇活動についての話し合いを行う。 ①入居者一人ひとりの個性や好み・生活時間についての話し合いを行い、個別レクについて検討を行う。 ②職員は、あやとりや、折り紙等、一つでもできることを増やせるよう職員同士で学びあう。	平成30年4月～ 平成31年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。